

【A年】

大齋節第二主日

全能の神よ、わたしたちには自らを助ける力のないことをあなたは知っておられます。どうか外は体を損なうすべての災いを防ぎ、内は魂を襲う悪念を除いてください。主イエス・キリストによつてお願いいたします。アーメン

司祭 「聖書のみ言葉を聞きましょう」

会衆は着席する。

旧約聖書

朗読者 「旧約聖書は創世記第十二章一節から」

1 主はアブラムに言われた。

「あなたは生まれ故郷父の家を離れて

わたしが示す地に行きなさい。

2 わたしはあなたを大いなる国民にし

あなたを祝福し、あなたの名を高める

祝福の源となるように。

3 あなたを祝福する人をわたしは祝福し

あなたを呪う者をわたしは呪う。

地上の氏族はすべて

あなたによつて祝福に入る。」

4 アブラムは、主の言葉に従つて旅立った。ロトも共に行った。

アブラムは、ハランを出発したとき七十五歳であった。5 アブラムは妻のサライ、甥のロトを連れ、蓄えた財産をすべて携え、ハランで加わった人々と共にカナン地方へ向かつて出発し、カナン地方に入った。6 アブラムはその地を通り、シケムの聖所、モレの榿の木まで来た。当時、その地方にはカナン人が住んでいた。7 主はアブラムに現れて、言われた。

「あなたの子孫にこの土地を与える。」

アブラムは、彼に現れた主のために、そこに祭壇を築いた。

8 アブラムは、そこからベテルの東の山へ移り、西にベテル、東にアイを望む所に天幕を張つて、そこにも主のために祭壇を築き、主の御名を呼んだ。

朗読者 「旧約聖書を終わります」

腰掛けたままで、一節ずつ交互に唱えます。

### 第三十三編 十二〜二十二節

- 12 主を神として頂く国＝ 神のものとして選ばれた民は幸  
せ
- 13 主は天から目を注ぎ＝ 人ひとをすべてご覧になる
- 14 神はそのみ住まいから＝ 地に住むすべての人に目を注  
がれる
- 15 神は一人ひとりの心を造り＝ その業を見抜かれる
- 16 王は多くの軍勢によって救われるのではなく＝ 勇士も  
力によって助けられるのではない
- 17 馬は救いの力にならず＝ 大軍も人の助けにはならない
- 18 主の目は神を畏れる人の上に＝ 神の愛に希望を置く人  
の上に注がれる
- 19 神は彼らの魂を死から救い＝ 飢えから彼らを助けられ  
る
- 20 わたしたちの魂は主を待ち望む＝ 神はわたしたちの盾  
また救い
- 21 心は神のうちに喜び＝ 尊い名に寄り頼む
- 22 主よ、慈しみをわたしたちの上に＝ あなたに希望を置  
く者に与えてください

### 使徒書

朗読者 「使徒書はローマの信徒への手紙第四章一節から」

1では、肉によるわたしたちの先祖アブラハムは何を得たと  
言うべきでしょうか。2もし、彼が行いによって義とされ  
たのであれば、誇ってもよいが、神の前ではそれはできませ  
ん。3聖書には何と書いてありますか。「アブラハムは神を信  
じた。それが、彼の義と認められた」とあります。4ところ  
で、働く者に対する報酬は恵みではなく、当然支払われる  
べきものと見なされています。5しかし、不信心な者を義と  
される方を信じる人は、働きがなくても、その信仰が義と認  
められます。

13神はアブラハムやその子孫に世界を受け継がせることを  
約束されたが、その約束は、律法に基づいてではなく、信仰  
による義に基づいてなされたのです。14律法に頼る者が世界  
を受け継ぐのであれば、信仰はもはや無意味であり、約束は  
廃止されたこととなります。15実は、律法は怒りを招くもの  
であり、律法のないところには違反もありません。16従って、  
信仰によってこそ世界を受け継ぐ者となるのです。恵みに  
よって、アブラハムのすべての子孫、つまり、単に律法に頼  
る者だけでなく、彼の信仰に従う者も、確実に約束にあず  
かれるのです。彼はわたしたちすべての父です。17「わたし  
はあなたを多くの民の父と定めた」と書いてあるとおりです。  
死者に命を与え、存在していないものを呼び出して存在さ

せる神を、アブラハムは信じ、その御前でわたしたちの父と  
なったのです。

朗読者 「使徒書を終わります」

一同立つ。

ここで聖歌を歌う。

## 福音書

司祭 「主は皆さんとともに」

会衆 「また、あなたとともに」

司祭 「聖ヨハネによる福音書第三章一節以下に記された主

イエス・キリストの福音。主に栄光」

会衆 「主に栄光がありますように」

1 さて、フアリサイ派に属する、ニコデモという人がいた。  
ユダヤ人たちの議員であった。2 ある夜、イエスののもとに來  
て言った。「ラビ、わたしどもは、あなたが神のもとから來  
られた教師であることを知っています。神が共におられるの  
でなければ、あなたのなさるようなしるしを、だれも行  
うことはできないからです。」3 イエスは答えて言われた。「はっ  
きり言っておく。人は、新たに生まれなければ、神の国を見

ることはできない。」4 ニコデモは言った。「年をとった者が、  
どうして生まれることができるでしょう。もう一度母親の胎内  
に入って生まれることができるでしょうか。」5 イエスは答  
えになった。「はっきり言っておく。だれでも水と霊とによつ  
て生まれなければ、神の国に入ることはできない。6 肉から生  
まれたものは肉である。霊から生まれたものは霊である。7  
『あなたがたは新たに生まれねばならない』とあなたに言っ  
たことに、驚いてはならない。8 風は思いのままに吹く。あ  
なたはその音を聞いても、それがどこから來て、どこへ行く  
かを知らない。霊から生まれた者も皆そのとおりでである。」  
9 するとニコデモは、「どうして、そんなことがありえましょ  
うか」と言った。10 イエスは答えて言われた。「あなたはイ  
スラエルの教師でありながら、こんなことが分からないのか。  
11 はっきり言っておく。わたしたちは知っていることを語り、  
見たことを証しているのに、あなたがたはわたしたちの証  
しを受け入れない。12 わたしが地上のことを話しても信じな  
いとすれば、天上のことを話したところで、どうして信じ  
るだろう。13 天から降つて來た者、すなわち人の子のほかに  
は、天に上つた者はだれもない。14 そして、モーセが荒野の  
で蛇を上げたように、人の子も上げられねばならない。15 そ  
れは、信じる者が皆、人の子によつて永遠の命を得るため  
である。

16 神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛され  
た。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得  
るためである。17 神が御子を世に遣わされたのは、世を裁く

ためではなく、御子みこによって世よが救すくわれるためである。

司祭 「主しゅに感謝かんしゃ」

会衆 「主しゅに感謝かんしゃします」